

様式1

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

- | | | |
|-------------|---|----|
| 必要最低科目数・単位数 | 1 | 科目 |
| | 2 | 単位 |

[illegible]

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化 ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会
	1-6	・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、転移学習など)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど ・1次データ、2次データ、データのメタ化
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など
	1-5	・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護
	3-2	・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値 ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ) ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)
	2-3	・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法) ・データの集計(和、平均) ・データの並び替え、ランキング

⑦ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

・データ・AIによって社会および日常生活が大きく変化していることを理解できる ・データ・AI活用領域の広がりを理解し、データ・AIを活用する価値を説明できる ・データ・AI利用におけるモラル・倫理・リスク・脅威(リスク)を理解できる ・AIを活用した新しいビジネス/サービスは、複数の技術が組み合わされて実現していることを理解できる

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和7 年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

[illegible]

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

(常勤)	15	人
(非常勤)	30	人

② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

1	人
---	---

③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	小竹 伴照
(役職名)	副学長(教学マネジメント, 学生支援, IR担当)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	教務委員会、合同マネジメント会議
------	------------------

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	教務委員会規程、合同マネジメント会議設置要綱
------	------------------------

⑥ 体制の目的

豊橋創造大学・豊橋創造大学短期大学部は、数理・データサイエンス・AI教育の全学的な普及を目的として、教務委員会および合同教学マネジメント会議による方針決定・実施・点検を行っている。

全学科の代表教務委員および本プログラムの科目担当教員により組織されたワーキンググループ(WG)を中心に具体的な検討を行ったのち、WGによる検討結果を全学科の教務委員会(教育課程や進級・卒業等の教育に関する主要事項について審議する組織)において審議している。その後、学長・副学長・学部長・学科長が一堂に会する合同教学マネジメント会議(教育課程の編成等に関する全学的方針の策定等について審議する会議)において内容確認・点検を行うことで、適切な教育プログラム運営と教育効果の向上を図ることができる体制としている。

⑦ 具体的な構成員

●合同教学マネジメント会議
 学長(教授)伊藤晴康
 副学長・保健医療学部長・合同教学マネジメント会議議長(教授)小竹伴照
 副学長・大学院健康科学研究科長(教授)後藤勝正
 経営学部長(教授)上原衛、理学療法学科長(教授)八木幸一、看護学科長(教授)蒔田寛子、経営学科長(教授)見目喜重、幼児教育・保育科長(教授)岡本雅子、キャリアプランニング科長・短大教務委員長(教授)花岡幹明、大学教務委員長・教学部長(教授)藤井徹也、IR管理者(教授)山口満、IR室長遠山直人
 ●教務委員会
 教務委員長・大学(教授)藤井徹也、短大教務委員長(教授)花岡幹明
 各学科部会長、各学科教務委員

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	11%
令和8年度予定	12%
令和9年度予定	13%
令和10年度予定	14%
令和11年度予定	16%

具体的な計画

「データサイエンス入門」は本学が実施する全学共通・学科横断型教育プログラム「地域未来創造プログラム」の一科目であり、2年次開講科目（選択）として実施している。はじめての開講となる令和7年度は、収容定員の11%にあたる35名が履修した。今後は、毎年度前年を上回る履修者数となるよう、次のような方策を検討・実施し、令和11年度に16%程度の履修率達成を目指す。

- ・令和8年度～ 学修サポートセンターに修了者を配置することで、学生がより相談しやすい環境を整える
- ・令和8年度～ 履修者の声、各専門領域における実例、地域・産業界の声の紹介等を通じて、本プログラム教育の意義の周知に努める
- ・令和9年度～ 修了証発行等、学生の履修意欲を高める方策を検討する

なお、履修状況を見て、開講時期の見直しなど、適切な対応を検討・実施する。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

全学生が受講できるように、プログラムを構成する科目「データサイエンス入門」を全学共通科目として開講している。また、LMS (Google Classroom) を活用したオンデマンド型の講義形式とすることで、時間や場所に捉われず講義資料にアクセスでき、予習・復習など個人のペースで学習に取り組むことができるようにしている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

春学期および秋学期の履修ガイダンスにおいて周知時間を設け、本プログラムの紹介スライドを示しながら説明を行い、履修を促している。また、プログラム紹介チラシの配布、大学Webサイトへの情報掲載、お試し履修の機会提供（オンデマンド型授業のイメージを掴んでもらうため、授業コンテンツや小テストの例示）を行っている。

プログラム紹介チラシにおいては、各学科の専門分野・領域における学習意義を示し、学生の興味・関心を引くことができるように工夫している。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

履修生は、PCを設置した自習室(5スペース)や、授業が行われていない時間帯の学内のPC教室(4室)をオンデマンド学習のために利用することができる。また、個人の持ち込みPCでの学習を支援するために、学内(屋内)全域で利用できる無線LAN設備も整備している。さらに、データを取り扱う演習に欠かせないソフトウェア(Excel、Microsoft 365使用権)を無償提供することで、学内や自宅等の場所を選ばずに任意の時間に学習可能とするサポート体制を構築している。

授業内容に関する不明点は、LMSやメール等を通じて質問を受け付け回答できるようにしている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

各回(各週)の授業の内容に関する質問等は、曜日や時間を指定せず随時受け付けている。対面での応対に加え、オンラインビデオ会議システム(Google Meet)を用いた双方向コミュニケーションによる質疑応答の仕組みを設けており、履修者の理解促進や不安解消に努めている。

加えて、本学が設置する学生の学修支援を目的とした支援組織「学修サポートセンター」が、授業内容や学習方法などの相談に応じられる体制を整備している。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 教務委員会、合同教学マネジメント会議

(責任者名) 小竹 伴照
(役職名) 副学長(教学マネジメント、学生支援、IR担当)

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況		本プログラムを構成する科目「データサイエンス入門」(選択科目)は、全学共通科目として2025(令和7)年度秋学期からオンデマンド型授業として開講した。対象者99名(2024年度入学生の2年生)に対して履修者は35名で、履修率は39%となった。今後はガイダンスやホームページ等を通じてプログラムの意義を説明し、多くの学生に興味を抱かせ、履修に結び付くよう継続して取り組む。
学修成果		2025(令和7)年度履修者35名のうち本プログラムを修了したものは34名となり、履修者の97%が到達目標を達成することができた。(※なお、1名については欠席過多による「失格」であった。)データサイエンスの基礎を身に付けさせるという本プログラムの目的は概ね達成できたものと評価できる。
学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度		本プログラム履修者全員(大学・短期大学部)に対して授業評価アンケートを実施し、学生の取り組み状況等を調査した。授業評価アンケートの結果から、履修者の多くが本プログラムの学修に積極的に取り組み、また、その結果として到達目標の達成を実感していることが確認できた。 ・設問1 授業への取り組み具合「積極的(66%)」「すこし積極的(27%)」 → 93% ・設問7 学修到達目標の達成「達成(70%)」「すこし達成(23%)」 → 93%
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度		本プログラム履修者全員(大学・短期大学部)に対する授業評価アンケート結果によると、回答者(29名)全員が後輩等他の学生に履修を「勧めたい(66%)」「どちらかといえば勧めたい(34%)」と感じており、本プログラムは履修者から高く評価されたといえる。
全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況		本プログラム構成科目「データサイエンス入門」は、本学としては初めてとなる「オンデマンド型授業」を行った。履修生に「受講を決めたきっかけ」を尋ねたところ、最も多かったのは「オンデマンド授業であり空き時間に学修できるため(48%)」という理由であった。一方で、未体験の授業形態に対して不安を感じて履修を避けた学生が一定数存在したことが予想される。今後は、従来のプログラム案内(ガイダンスや配布チラシ)に修了者の声を掲載して紹介するとともに、学修サポート体制を明確に示すことで、履修を迷う学生の不安を取り除き履修率の向上を図る。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	2025(令和7)年度から開始したプログラムとなるため、プログラムを履修した学生が卒業するのは2025(令和7)年度末となり、現時点で本プログラムを修了して卒業した学生の社会における活躍状況等を確認することはできない。 今後は、本プログラム修了者の活躍状況や企業等の評価を把握できるように、関連部署(キャリアセンター等)が行う従来の卒業生に組み入れる等、連携しながら把握方法について具体的に検討・準備する。
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	2025(令和7)年度の本プログラム実施内容および結果について、各分野の有識者に評価を依頼した。結果として、プログラムの目的や教育内容、実施体制、教材や評価方法はそれぞれ「適切である」との評価を受けた。なお、「今後の改善・発展に向けた提案」事項として、「教材や教育方法の工夫」「成績の詳細分析とその対応(事前学習の工夫等)」に関する意見があり、次年度に向けて具体的な改善案を検討し実施する。 令和8年度以降は、本学「自己点検・評価委員会」と連携し、毎年度、産業界からの視点で本プログラム評価を依頼することとしている。寄せられた意見を参考に、継続的にプログラムの改善を行う。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		LMS(学習管理システム、Google Classroom)を活用し、分かりやすいビデオ教材へのリンクや実社会における例を交えた平易な解説スライド※を提示することで、数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義を分かりやすく伝えることに努めている。 ※ 数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムが公開している「リテラシーレベルモデルカリキュラム対応教材」も活用
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載		LMSを活用し、分かりやすいビデオ教材と実例を交えた平易な解説スライドを用いることで、履修者が都合の良い時間に自分のペースで自学自習できる環境を整えている。また、各回の学習範囲の確認テスト → 復習後の次回授業冒頭に実施する出席テスト(前回の内容の確認)の学修サイクルにより、知識の定着・理解度の向上を図っている。 授業評価アンケートにおいては、「授業がわかりやすく理解できるように工夫されていたか」の質問に対する回答が「工夫されていた(64%)」「すこし工夫されていた(25%)」となり、プログラム(科目)で提示した学習教材や授業構成・進行に関して多くの履修生から高く評価されていることを確認できた。

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期				授業コード	12860			
科目	1286 データサイエンス入門				授業種別	週間授業			
担当教員	今井 正文				単位数	2			
その他担当者									
授業概要	本講義では、デジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養として「リテラシーレベル」の知識を身に付ける。また、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを使う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになることを目指す。なお、はじめて学ぶ者にとっても理解できるように理論よりも演習に重点をおき平易な授業展開を目指す。授業では、Classroomを活用して、教材（ビデオ、スライド）をもとにした小テストおよび課題提出を実施し、質疑応答やフィードバックなどはClassroomおよび双方向授業や対面授業の時間を設け併せて行う。 ※この科目は基本的にオンデマンド授業、一部を双方向授業や対面授業を併せて実施する。								
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4					
ディプロマポリシーとの関連性	○	○							
到達目標	・データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解できる ・「数理/データサイエンス/AI」が、今後の社会における「読み/書き/そろばん」であることを理解できる ・データ・AI活用領域の広がりを理解し、データ・AIを活用する価値を説明できる ・今のAIで出来ること、出来ないことを理解できる ・AIを活用した新しいビジネス/サービスは、複数の技術が組み合わされて実現していることを理解できる ・データ・AIが日常生活や社会/組織でどのように使われているかを知り、モラル・倫理・リスク・脅威（リスク）の理解を深め、適切に利用することを意識して、知識・スキルの重要性を理解できる ・帰納的推論と演繹的推論の違いと、それらの利点、欠点を理解できる								
テキスト（教科書）	『教養としてのデータサイエンス』北川源四郎/竹村彰通・編 内田誠一/川崎能典/孝忠大輔/佐久間淳/椎名洋/中川裕志/樋口知之/丸山宏・著、講談社サイエンティフィック、ISBN:978-4065238097 https://www.kspub.co.jp/book/detail/5238097.html								
参考書および参考文献	講義の中で適宜紹介する。								
受講条件	特になし。								
事前・事後学修（内容・時間）	次のような事前・事後学習を毎回3時間程度行うこと。（）内に目安の時間を示す。 ・次回授業範囲の内容について教科書や配付資料などの該当箇所を熟読する。（0.5時間程度） ・講義テーマに関する専門用語の意味やその内容を調べる。（1時間程度） ・授業で学んだ内容について整理し、理解を深める。（1.5時間程度）								
成績評価									
小テストおよび課題提出（60％：各章の講義内容の理解度を確認する） 定期試験（40％） 定期試験内訳：講義内容の基礎的事項に関する問題、発展・応用問題									
評価項目		割合	評価基準						
小テストおよび課題提出		60％	各回の講義内容についての理解度を確認する。						
定期試験		40％	試験にて講義内容についての理解度を確認する。						
授業の実施方法と授業計画	第1章 [導入] 社会におけるデータ・AI活用								
	第01回 (講義・演習) ガイダンス、1.1 社会でおきている変化								
	第02回 (講義・演習) 1.2 社会で活用されているデータ								
	第03回 (講義・演習) 1.3 データとAIの活用領域								
	第04回 (講義・演習) 1.4 データ・AI活用のための技術								
	第05回 (講義・演習) 1.4 データ・AI活用のための技術その2								
	第06回 (講義・演習) 1.5 データ・AI活用の現場								
	第07回 (講義・演習) 1.6 データ・AI活用の最新動向								
	第2章 [基礎] データリテラシー								
	第08回 (講義・演習) 2.1 データを読む								
	第09回 (講義・演習) 2.1 データを読むその2 (Excel実習)								
	第10回 (講義・演習) 2.2 データを説明する								
	第11回 (講義・演習) 2.3 データを扱う (SSDSEデータ実習)								
	第12回 (講義・演習) 2.3 データを扱うその2 (SSDSEデータ実習)								
	第3章 [心得] データ・AI活用における留意事項								
第13回 (講義・演習) 3.1 データ・AIを扱う上での留意事項									
第14回 (講義・演習) 3.2 データを守る上での留意事項									
第15回 (講義) まとめ									
ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがあり得る。 課題（テストやレポート等）については、Classroomおよび双方向授業や対面授業の時間を通して質問や疑問等に対するフィードバックを行う。 必要に応じて、オフィスアワーなどを利用し個別に対応する。									
ナンバリング	PEFL2018								

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	41970		
科目	4197 データサイエンス入門			授業種別	週間授業		
担当教員	今井 正文			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	本講義では、デジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養として「リテラシーレベル」の知識を身に付ける。また、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを使う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになることを目指す。なお、はじめて学ぶ者にとっても理解できるように理論よりも演習に重点をおき平易な授業展開を目指す。 授業では、Classroomを活用して、教材（ビデオ、スライド）をもとにした小テストおよび課題提出を実施し、質疑応答やフィードバックなどはClassroomおよび双方向授業や対面授業の時間を設け併せて行う。 ※この科目は基本的にオンデマンド授業、一部を双方向授業や対面授業を併せて実施する。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性			◎				
到達目標	・データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解できる ・「数理/データサイエンス/AI」が、今後の社会における「読み/書き/そろばん」であることを理解できる ・データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を説明できる ・今のAIで出来ること、出来ないことを理解できる ・AIを活用した新しいビジネス/サービスは、複数の技術が組み合わされて実現していることを理解できる ・データ・AIが日常生活や社会/組織でどのように使われているかを知り、モラル・倫理・リスク・脅威（リスク）の理解を深め、適切に利用することを意識して、知識・スキルの重要性を理解できる ・帰納的推論と演繹的推論の違いと、それらの利点、欠点を理解できる						
テキスト（教科書）	「教養としてのデータサイエンス」北川源四郎/竹村彰通・編 内田誠一/川崎能典/孝忠大輔/佐久間淳/椎名洋/中川裕志/樋口知之/丸山宏・著、講談社サイエンティフィック、ISBN:978-4065238097 https://www.kspub.co.jp/book/detail/5238097.html						
参考書および参考文献	講義の中で適宜紹介する。						
受講条件	特になし。						
事前・事後学修（内容・時間）	次のような事前・事後学習を毎回3時間程度行うこと。（）内に目安の時間を示す。 ・次回授業範囲の内容について教科書や配付資料などの該当箇所を熟読する。（30分程度） ・講義テーマに関する専門用語の意味やその内容を調べる。（60分程度） ・授業で学んだ内容について整理し、理解を深める。（90分程度）						
成績評価							
小テストおよび課題提出（60％：各章の講義内容の理解度を確認する） 定期試験（40％） 定期試験内訳：講義内容の基礎的事項に関する問題、発展・応用問題							
評価項目		割合	評価基準				
小テストおよび課題提出		60％	各回の講義内容についての理解度を確認する。				
定期試験		40％	試験にて講義内容についての理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	第1章〔導入〕社会におけるデータ・AI利活用						
	第01回（講義・演習）ガイダンス、1.1 社会でおきている変化						
	第02回（講義・演習）1.2 社会で活用されているデータ						
	第03回（講義・演習）1.3 データとAIの活用領域						
	第04回（講義・演習）1.4 データ・AI利活用のための技術						
	第05回（講義・演習）1.4 データ・AI利活用のための技術その2						
	第06回（講義・演習）1.5 データ・AI活用の現場						
	第07回（講義・演習）1.6 データ・AI活用の最新動向						
	第2章〔基礎〕データリテラシー						
	第08回（講義・演習）2.1 データを読む						
	第09回（講義・演習）2.1 データを読むその2（Excel実習）						
	第10回（講義・演習）2.2 データを説明する						
	第11回（講義・演習）2.3 データを扱う（SSDSEデータ実習）						
	第12回（講義・演習）2.3 データを扱うその2（SSDSEデータ実習）						
	第3章〔心得〕データ・AI利活用における留意事項						
第13回（講義・演習）3.1 データ・AIを扱う上での留意事項							
第14回（講義・演習）3.2 データを守る上での留意事項							
第15回（講義）まとめ							
ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがあり得る。 課題（テストやレポート等）については、Classroomおよび双方向授業や対面授業の時間を通して質問や疑問等に対するフィードバックを行う。 必要に応じて、オフィスアワーなどを利用し個別に対応する。							
ナンバリング	CPGM2015						

幼児教育・保育科カリキュラムマップ

区分		コード	科目ナバリング	授 業 科 目	ディプロマポリシー			
					保育に関する専門的な知識や技能を修得している。	保育者としての意欲・責任感・使命感を身につけている。	他者とコミュニケーションをとることができる、協働できる。	自他ともに大切にし、他者を思いやり受容できる。
基礎教養科目	基礎教養プログラム	1011	PEFL2012	文 学		△	○	△
		1021	PEFL2013	歴 史 学		△	○	△
		1051	PEFL1002	倫 理 学	◎		△	◎
		1122	PEFL1003	憲 法	○	○		○
		1211	PEFL1004	生 物 学	△			◎
		1252	PEFL1005	数 学 基 礎	△	△		
	文化教養プログラム	1246	PEFL2014	総 合 講 座	△	△		
		1042	PEFL1001	表 現 学	○	○	◎	△
		1271	PEFL1006	茶 道 I		△	○	○
		1272	PEFL1007	茶 道 II		△	○	○
	地域未来創造プログラム	1281	PEFL1008	硬 筆 書 道	○			△
		1282	PEFL1009	フ ラ ウ ー ア レ ン ジ メ ン ト	○	○		◎
		1283	PEFL1010	ボ ラ ン テ ィ ア 演 習	◎	◎	○	◎
		1284	PEFL2015	手 話 入 門	△	△	◎	◎
		1285	PEFL2017	防 災 安 全 講 座		◎	◎	◎
		1286	PEFL2018	デ ィ タ イ エ ン ス 入 門	○	○		
体 育 健		2632	PECL1001	体 育 講 義	○	△	△	○
		2652	PEDL1001	体 育 実 技	○	△	◎	○
外国語		2010	PEFL1011	英 語 (異文化理解とコミュニケーション)			◎	○
		2010	PEFL2016	ポ ル ト ガ ル 語			◎	○
専門的科目		3101	PEAM2008	保 育 者 論	◎	◎		
		311A	PEBM1004	社 会 福 祉	◎	○		○
		3102	PEBM2005	子 ども 家 庭 福 祉	◎	◎		○
		3142	PEAM1001	保 育 原 理	◎	◎		○
		3103	PEBM1001	社 会 的 養 護 I	◎	○		○
		3104	PEBM1002	社 会 的 養 護 II	◎	○	◎	○
		3181	PEAM2010	教 育 原 理	◎	◎		○
		3212	PECM1003	子 ども の 心 理 学	◎			○
		3105	PECM2005	子 ども 家 庭 支 援 の 心 理 学	◎	○	◎	○
		3106	PECM2006	子 ども の 理 解 と 援 助	◎	○	○	◎
		3107	PECM1002	子 ども の 保 健 I	◎	◎		○
		3108	PECM2007	子 ども の 健 康 と 安 全	◎	◎		○
		3216	PECM2008	子 ども の 食 と 栄 養	◎	◎	○	○
		3109	PEBM2006	子 ども 家 庭 支 援 論	◎		△	○
		3110	PEAM2009	カ リ キ ュ ラ ム 論	◎	◎		
		3281	PEBM2007	障 害 児 心 理 学	◎	◎		◎
		3112	PEBM1003	幼 児 理 解 と 教 育 相 談	◎	◎	○	○
		3402	PEDM1002	子 ども と 生 活	○		○	○
		3412	PEAM1002	保 育 内 容 総 論	◎	◎		
		3422	PEAM1003	保 育 内 容 ・ 健 康	◎	◎		○
		3432	PEAM1004	保 育 内 容 ・ 人 間 関 係	◎	◎	○	○
		3442	PEAM1005	保 育 内 容 ・ 環 境	◎	○		△
		3452	PEAM1006	保 育 内 容 ・ 言 葉	◎	○	◎	△
		3463	PEAM1007	保 育 内 容 ・ 表 現	◎	○	◎	△
		3471	PEAM2011	保 育 方 法 論	◎	◎	△	△

区分	コード	科目ナンバリング	授 業 科 目	ディプロマポリシー			
				保育に関する専門的な知識や技能を修得している。	保育者としての意欲・責任感・使命感を身につけている。	他者とコミュニケーションをとることができる。協働できる。	自他ともに大切にし、他者を思いやり受容できる。
専門的科目	3490	P E C M 1 0 0 4	乳 児 保 育 I	◎	◎		○
	3492	P E C M 2 0 0 9	乳 児 保 育 II	◎	◎		○
	3493	P E B M 2 0 0 8	特 別 支 援 教 育 ・ 保 育 I	◎	◎		◎
	3494	P E B M 2 0 0 9	特 別 支 援 教 育 ・ 保 育 II	◎	◎	○	◎
	3495	P E B M 2 0 1 0	子 育 て 支 援	◎	○	◎	○
	3511	P E D M 2 0 1 2	児 童 文 化	◎	△	○	△
	3521	P E D M 2 0 1 3	児 童 文 学	◎	○	○	△
	3532	P E D M 1 0 0 3	情 報 教 育 入 門	◎	◎	○	○
	3544	P E D M 1 0 0 4	教 育 工 学 演 習 I (情 報 教 育 と コ ン プ ュ ー タ)	◎	◎	○	
	3545	P E D M 2 0 1 4	教 育 工 学 演 習 II (子 ど も と コ ン プ ュ ー タ)	◎	◎	○	○
	3622	P E D M 1 0 0 5	音 楽 I	◎	○		
	3623	P E D M 1 0 0 6	音 楽 II	◎	◎	△	
	3624	P E D M 2 0 1 5	音 楽 III	◎	○	○	○
	3625	P E D M 2 0 1 6	音 楽 IV	◎	○	○	○
	3632	P E D M 1 0 0 7	基 礎 造 形	◎	△	○	○
	3633	P E D M 1 0 0 8	幼 児 と 健 康 I	◎	○	○	○
	3634	P E D M 2 0 1 7	幼 児 と 健 康 II	◎	○	○	○
	3635	P E D M 2 0 1 8	幼 児 と 表 現 I	◎	◎	○	○
	3636	P E D M 2 0 1 9	幼 児 と 表 現 II	◎	○	◎	○
	3637	P E D M 2 0 2 0	幼 児 と 言 葉	◎	○	◎	○
	3638	P E D M 1 0 0 9	幼 児 と 環 境	◎	○	◎	○
	3651	P E D M 1 0 1 0	言 葉 と 表 現	○	○	○	
	3711	P E E M 1 0 0 1	実 習 指 導	◎	◎	○	○
	3721	P E E M 1 0 0 2	教 育 実 習	◎	◎	○	○
	3723	P E E M 1 0 0 3	保 育 実 習 I (保 育 所)	◎	◎	○	◎
	3724	P E E M 1 0 0 4	保 育 実 習 I (施 設)	◎	◎	○	◎
	3725	P E E M 1 0 0 5	保 育 実 習 指 導 I (保 育 所)	◎	◎	○	◎
	3726	P E E M 1 0 0 6	保 育 実 習 指 導 I (施 設)	◎	◎	○	◎
	3741	P E E M 2 0 0 7	保 育 実 習 II	◎	◎	○	○
	3742	P E E M 2 0 0 8	保 育 実 習 指 導 II	◎	◎	○	○
	3760	P E E M 2 0 0 9	保 育 ・ 教 職 実 践 演 習 (幼 稚 園)	◎	◎	○	○
	3765	P E D M 2 0 2 1	総 合 表 現	○	○	◎	○
	3766	P E D M 1 0 1 1	子 ど も と 絵 本	○	○	○	○
	3767	P E B M 2 0 1 1	医 療 的 ケ ア I	○			◎
	3768	P E B M 2 0 1 2	医 療 的 ケ ア II	◎		○	
	3769	P E B M 2 0 1 3	医 療 的 ケ ア III	○	○		○
	3808	P E F M 1 0 1 8	保 育 者 の ラ イ フ デ ザ イ ン	○	○	○	○
	3809	P E F M 1 0 1 9	保 育 者 の キャ リ ア デ ザ イ ン I	◎	○	○	○
	3812	P E F M 2 0 2 0	保 育 者 の キャ リ ア デ ザ イ ン II	◎	○	○	○
自由科目	3908	P E F M 0 0 1 6	キャ リ ア ベ ー シ ッ ク ・ 言 語 I	○		○	
	3909	P E F M 0 0 1 7	キャ リ ア ベ ー シ ッ ク ・ 言 語 II	○		○	

◎ : 強く関連

学修成果

○ : 関連

△ : やや関連

キャリアプランニング科カリキュラムマップ

コース名	ユニット名	コード	科目ナンバリング	授業科目	ディプロマポリシー		
					社会人基礎力を養い、汎用性のある一般事務能力を身につけている。	人間・社会・自然に対する理解を深め、幅広い教養を身につけている。	自分で選択した専門分野における体系的学修と隣接分野を含む多様な学修により、応用のきく専門性を身につけている。
共通必修	就業力育成コア	4001	CPBM1005	キャリアプランニングⅠ	◎		
		4002	CPBM1006	キャリアプランニングⅡ	◎		
		4006	CPBM2009	ゼミナール	◎	○	
		4008	CPCM1001	ビジネス文書Ⅰ	◎		
		4009	CPCM2004	ビジネス文書Ⅱ	◎	○	
		4010	CPCM2005	接遇演習	◎		
		4015	CPAM1001	プロジェクトプランニング	◎		
		4016	CPCM1002	ビジネス実務総論	◎		
		4023	CPAM1002	パソコン演習Ⅰ	◎		
		4024	CPAM1003	パソコン演習Ⅱ	◎		
		4025	CPAM1004	実務英語	○	◎	
		4027	CPDM2016	ライフ・コーディネート (人生とお金)	◎	○	
		4018	CPDM1010	計算実務	◎	○	
共通選択必修	生活力育成	4041	CPCM1003	ビジネス実務演習	◎	○	○
		4150	CPDM1012	食の歴史と文化		◎	
		4250	CPDM1015	食生活アドバイザー	△	○	
		4151	CPDM2017	製菓実習		◎	
		4152	CPDM2018	食と健康		◎	
		4153	CPDM1013	クッキングⅠ		◎	
		4154	CPDM2019	クッキングⅡ		◎	
		4155	CPDM1014	生活空間デザイン	◎	◎	△
	地域未来創造 プログラム	4234	CPDM2020	手話入門		◎	
		4195	CPDL1009	ボランティア演習	◎		
公務員コース	一般教養	4196	CPDL2010	防災安全講座	◎		
		4197	CPGM2015	データサイエンス入門			◎
		1111	CPDL1006	心理学	◎	◎	
		2653	CPDL2009	トレーニング	△	○	
		4163	CPDL1007	茶道Ⅰ	◎	◎	
		4164	CPDL1008	茶道Ⅱ	◎	○	
	公務員	4168	CPEL1001	基礎教養Ⅰ		◎	
		4169	CPEM1002	基礎教養Ⅱ		◎	
		4181	CPFM1009	数的処理Ⅰ		○	◎
		4182	CPFM1010	数的処理Ⅱ		○	◎
		4183	CPEM1003	社会科学基礎		◎	
		4184	CPEM1004	知識分野基礎		◎	
		4187	CPFM2020	公務員知能分野応用		○	◎
		4188	CPFM2021	公務員知識分野応用		○	◎
		4189	CPGM2008	公務員総合ゼミナール			◎
		4192	CPFM2022	ニュース解説	○	○	◎
		4193	CPFM2024	生活と法		○	◎
		4194	CPFM1011	現代社会が抱える課題		◎	

コース名	ユニット名	コード	科目ナンバリング	授業科目	ディプロマポリシー		
					社会人基礎力を養い、汎用性のある一般事務能力を身につけている。	人間・社会・自然に対する理解を深め、幅広い教養を身につけている。	自分で選択した専門分野における体系的学修と隣接分野を含む多様な学修により、応用のきく専門性を身につけている。
ビジネス秘書コース	オフィス秘書	4051	CPFM1001	プレゼンテーション	◎	○	○
		4056	CPFM1002	ＩＴ入門		○	◎
		4057	CPGM2006	パソコン演習Ⅲ	○	○	◎
		4058	CPGM2007	パソコン演習Ⅳ	○	○	◎
		4073	CPFM1003	商業簿記Ⅰ	◎	○	◎
		4074	CPGM1001	商業簿記Ⅱ	○	○	◎
		4076	CPGM1002	工業簿記	○	△	◎
	販売士	4175	CPGM1004	マーケティング			◎
		4176	CPFM1007	ショップマネジメント			◎
		4177	CPFM1008	流通論			◎
		4178	CPGM1005	店舗・販売戦略			◎
	国際・観光	4103	CPFM2018	韓国入門		◎	
		4104	CPFM2019	ドイツ入門		◎	
		4106	CPFM1025	ポルトガル語		◎	
		4108	CPFM1004	観光英会話Ⅰ	△	◎	
		4109	CPGM1003	観光英会話Ⅱ	△	◎	
		4110	CPFM1005	ＴＯＥＩＣ対策	○	◎	◎
		4111	CPFM1006	観光ビジネス		○	◎
医療事務コース	医療事務	4112	CPDM1011	海外語学研修	○	○	
		4209	CPFM1011	医療保険制度		○	◎
		4211	CPFM1012	医療法規			◎
		4212	CPGM2009	医事コンピュータ実務			◎
		4216	CPFM1013	介護事務Ⅰ			◎
		4217	CPGM2010	介護事務Ⅱ			◎
		4225	CPFM1014	診療報酬請求論Ⅰ			◎
		4226	CPFM1015	診療報酬請求論ⅡＢ			◎
		4227	CPGM2011	診療報酬請求論ⅢＢ			◎
		4232	CPFM1016	診療報酬請求論ⅡＡ			◎
		4241	CPGM2012	診療報酬請求論ⅢＡ			◎
		4242	CPFM1017	歯科事務Ⅰ			◎
		4243	CPGM2013	歯科事務Ⅱ			◎
		4229	CPBM1008	医療事務実習	◎		◎
		4244	CPGM2014	診療報酬請求論ⅣＢ			◎
他	就職力強化	4053	CPBM1007	インターンシップ	◎	△	○
				資格認定	○	○	◎

◎：強く関連

学修成果 ○：関連

△：やや関連

豊橋創造大学短期大学部教務委員会規程

制定

平成 4年 4月 1日

改正

平成 8年 4月 1日

平成19年 1月 1日

第1条 この規程は、豊橋創造大学短期大学部運営組織規程第16条の規定に基づき、教務委員会の所管事項を定めるものとする。

第2条 教務委員会は、次の事項について審議し処理する。

- (1) 教育課程、授業時間、単位修得等に関する事項
- (2) 学年歴、学校行事に関する事項
- (3) 授業計画等学生の学習に関する事項
- (4) 学生の試験、卒業、免許状、資格の取得等に関する事項
- (5) 公開講座、科目等履修生、委託生に関する事項
- (6) 入学式、卒業式に関する事項
- (7) その他教務に関する主要事項

第3条 教務委員会は、原則として毎月1回招集するものとする。

第4条 教務委員会の庶務は、教学部において行う。

附則

この規程は、平成4年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成8年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成19年1月1日から施行する。

豊橋創造大学・豊橋創造大学短期大学部合同マネジメント会議設置要綱

制定

2021年12月 1日

(設置)

第1条 豊橋創造大学及び豊橋創造大学短期大学部（以下「本学」という。）における教学運営の重要事項を検討するとともに、教学改革を遂行することを目的として豊橋創造大学・豊橋創造大学短期大学部 合同教学マネジメント会議（以下「教学マネジメント会議」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 教学マネジメント会議は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項を検討し、企画・立案する。

- (1) 教育課程の編成等に関する全学的方針の策定に関すること
- (2) 教学改革に関すること。
- (3) 教学運営の重要事項に関すること
- (4) 教育の内部質保証に関すること。

2 教学マネジメント会議は、関係する部局等と連携して前項の所掌事項を進めるものとする。

(組織)

第3条 教学マネジメント会議は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学部長
- (4) 学科長及び科長
- (5) 教務委員会委員長
- (6) IR管理者
- (7) 教学部長
- (8) 教務課長
- (9) IR室長
- (10) その他、学長が必要と認めた者 若干名

(議長)

第4条 教学マネジメント会議の会議（以下「会議」という。）に議長を置き、学長があらかじめ指名する副学長をもって充てる。

2 会議は、必要に応じて議長が招集する。

3 議長は、構成員の3分の1以上の者から請求があったときは、これを招集しなければならない。

4 議長に事故等があるときは、議長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 会議は、委員の3分の2以上が出席しなければ、開くことができない。

2 会議において議決を要するときは、出席委員の過半数によって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(関係職員の出席等)

第6条 議長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を求めることができる。

(議事録)

第7条 議長は、会議の議事について議事録を作成しなければならない。

(庶務)

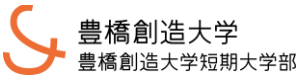
第8条 教学マネジメント会議の庶務は、教学部教務課において行う。

附 則

この要綱は、2021年12月1日から施行する。

大学等名	豊橋創造大学短期大学部	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	豊橋創造大学・豊橋創造大学短期大学部 数理・データサイエンス・AI教育プログラム	申請年度	令和8年度

取組概要



豊橋創造大学・豊橋創造大学短期大学部
数理・データサイエンス・AI教育プログラム

プログラムの目的

数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、適切に理解し活用する基礎的な能力を育成することを目的として、2025年度より全学部生を対象とした教育プログラムを実施しています。本プログラムは、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」のモデルカリキュラムに準拠しています。

概要

デジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養として「リテラシーレベル」の知識を身に付けます。

また、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになることを目指します。

プログラムを構成する科目・修了要件

全学共通科目「データサイエンス入門[†]」2単位を修得することを本プログラムの修了要件としています。

対象： 短期大学部 幼児教育・保育科
短期大学部 キャリアプランニング科

科目名	単位数	開講年次	プログラムの修了要件
データサイエンス入門	2	2年秋学期	必修

[†]オンデマンド型授業を実施

身に付けられる能力

- ✓ データ・AIによって社会および日常生活が大きく変化していることを理解できる
- ✓ データ・AI活用領域の広がりを理解し、データ・AIを活用する価値を説明できる
- ✓ データ・AI利用におけるモラル・倫理・リスク・脅威(リスク)を理解できる
- ✓ AIを活用した新しいビジネス/サービスは、複数の技術が組み合わせられて実現していることを理解できる

実施体制

以下の組織・会議体により、本プログラムの改善や自己点検・評価を行っています。

プログラム運営責任者	副学長(教学マネジメント、学生支援、IR担当)
プログラムを改善・進化させるための体制	教務委員会 合同教学マネジメント会議
プログラムの自己点検・評価を行う体制	教務委員会 合同教学マネジメント会議